

## 第2回みなまた地域創生ビジョン研究会

平成28年1月22日（金）

【岩橋室長】 では、定刻になりましたので、ただいまから「みなまた地域創生ビジョン研究会」第2回会合を開催させていただきます。

私、国立水俣病総合研究センター地域政策研究室長の岩橋でございます。事務局を務めますので、よろしくお願いいたします。また、委員の先生方には、お忙しい中、お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

まず、本日の研究会の出席状況ですが、全委員数8名のうち現時点で6名の委員がご出席されています。

お手元の資料を1枚めくっていただきますと、資料1に各委員のお名前と所属、肩書を載せております。今回、初めてご出席の委員がおられますので、最初に自己紹介をお願いしたいと思います。

では、勢一委員から、簡潔にお願いします。

【勢一委員】 西南学院大学の勢一と申します。今回から出席させていただいております。専門は行政法でございまして、国や都道府県などの委員も少しやっております。実務のほうも、若干接する機会ありますので、一緒に考えさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【岩橋室長】 ありがとうございます。では、牧迫先生お願いします。

【牧迫委員】 皆様、こんばんは。愛知県にあります国立長寿医療研究センターから参りました牧迫飛雄馬と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私どもの研究所では、現在、認知症の予防を中心に、基礎的な研究から、疫学調査、あと介入研究による効果の検証等々を行っております。いろいろと勉強させていただきながらと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

【岩橋室長】 ありがとうございます。では、深水先生お願いします。

【深水委員】 深水医院の深水と申します。

平成4年に水俣に帰ってきて、うちの主人が、亡くなった兄の後を継いで深水医院をしております。私は大阪出身ですので、もう二十何年、水俣に住んだとはいえ、まだ新参者という感じです。よろしくお願いいたします。

【岩橋室長】      ありがとうございます。

本日は、水俣市さんとの協定に基づいて進めておりますので、水俣市さんからも環境課長の松木様、健康高齢課長の和田様にオブザーバーとしてご出席いただいております。お二人には、前回、水俣市の現状と課題につきまして、松木様には環境の側面から、和田様には健康の側面からご報告をいただいております。

また本日は、広域的な視点から、水俣・芦北地域の振興計画について説明していただくために、熊本県企画振興部地域・文化振興局地域振興課の入船補佐と錦戸主幹のお二人にお越しいただいております。

次に、資料の確認と取り扱いについてご説明いたします。

お手元に、議事次第、資料1「委員名簿」、1枚めくっていただきまして、資料2「第1回意見の概要」が3枚あります。続きまして、資料3「水俣・芦北地域振興計画について」が3枚ありまして、資料4「フューチャーセッションによる水俣の未来像」、そして、1枚めくっていただきまして、参考資料1「研究内容の概要」。めくっていただきまして、参考資料2「研究会スケジュール」。次に、参考資料3「第六次水俣・芦北地域振興計画基本構想編」。そして、次の冊子が同じく「振興計画の平成28年度実施計画編」。これの後に、参考資料5「フューチャーセッションの成果 第1回～第15回」をお配りしております。

資料と参考資料にはごらんとおり、右上に四角の囲みでそれぞれ表示をしておりますので、そこを見ていただくと開きやすいかと思えます。また、資料ごとに左上をホチキスでとめまして、ページ番号は資料ごとに2ページ目からつけております。一つ一つ資料をご確認いただきまして、もし不足している場合にはお申しつけください。

本日の資料やご意見等につきましては、原則、後日全て公開として、発言者名を付した議事録を各委員にご確認いただいた上で、公開させていただく予定にしております。

それでは、カメラ撮りのほうはここまでとさせていただきます。また、この後の議事進行につきましては、永松座長にお願いしたいと思えます。

【永松座長】      皆さん、こんばんは。

本日が第2回目でございますけれども、前半は資料に基づいて説明していただいた後に、委員の皆さんからの意見をいただくという形をとらせていただきたいと思います。特に、何人かの委員の方々は今回初めて参加されるということでございますので、まず前回の委員会のポイントや意見を簡単に確認し、次に広域的視点から水俣・芦北地域の振興計画について熊本県のほうから説明していただきます。それから、国水研のほうで取り組まれて

いるフューチャーセッションによる水俣の未来像について説明していただきます。その上で、皆さんからご意見をいただいて、議論を進めてまいりたいと思います。

それでは早速、まず前回のポイントや意見について、参考資料1と2、それから資料2をもとに、事務局のほうから要点を簡潔に説明していただきたいと思います。

よろしく申し上げます。

**【岩橋室長】** それでは、参考資料1をお開きください。何枚かめくっていただきますと、右上に参考資料1と書かれたものが出てまいります。

まず、本研究会の目的ですが、水俣市さんとの協定に基づいた「みなまた地域の創生に向けた支援」といたしまして、「未来思考のまちづくり」というものを推進するために、本研究会の成果を研究会報告書としてまとめていただくことです。

この「未来思考」という言葉については、上の点線の枠囲みの中に記載しておりますように、既成概念や潮流に捉われず、水俣地域の長期的な振興・発展のために、地域社会の未来像、すなわちビジョンといわれるものを複数想定し、それを具体化する施策や事業を検討していくことであります。

そのため、本研究会で検討する重点分野の考え方を下のほうに青い文字でお示しております。

例えば②「今後の環境のまちづくり」につきましては、水俣市が最も力を入れてきた分野であります。そして既に「環境モデル都市」や「日本の環境首都」になるなど、高く評価されている分野だと認識しております。

次に③の健康や福祉の分野につきましては、前回の報告でありましたように、実は水俣市は人工透析を受けている人の割合が国内的にも高く、とても不健康な状態にあるということがわかりましたので、今後、国水研の強みを生かして、新たな施策や事業につながりやすい分野だと考えているところであります。

さらに、④の内外への情報発信につきましては、2013年の水俣条約外交会議によりまして、世界に共有されたこの「水俣」という地名を売りにしつつ、内外における公害の再発防止という国水研の使命を果たしていきたいと考えているところであります。

続きまして、参考資料2のポイントを簡潔に説明いたします。めくっていただきますと、A4横使いの表みたいなものがあります。

スケジュールを上半分に示しております。一番ごらんいただきたいのは、右下にあります研究会の予定というところでございます。これはあくまでも当初の段階でのイメージな

のですが、最後のゴールの2017年3月までに研究会報告書を成果物としてまとめていただくこととなります。ただ、その途中の経過につきましては、これから委員の皆様とよくお話しいたしまして、開催時期と内容のほうを見直しながら、その都度進めていきたいと思っております。

次に、資料2のご説明をいたします。

資料2は、第1回の研究会における意見の概要を、時系列で4点に整理しております。点線の枠囲みの中に(1)から(4)まで、各意見の要旨を明示いたしまして、その下に委員ごとに意見を事務局でまとめております。

まず1点目、本研究会における重点分野の考え方についてご意見がありました。

永松座長から、2つ目のポツで、アメリカの公害都市は過去の暗い歴史を乗り越えて新しい歴史をつくってきたということ、そして3つ目のポツで、アメリカの公害都市では復活というよりも新しく生まれ変わって元気になっているということ、そして4つ目のポツで、これまでの延長線上ではなく一点突破型の提案が必要とのご意見がありました。

さらに松永委員からも一点突破型で考えたほうがよい。水俣の未来のビジョンがあって、そのビジョンの中で何か一つやるという形、とがった形の提案がいいというご意見がありました。

また石原委員から、国の研究所には役割が三つあるとのご意見がありました。下のほうに明朝体にしております1、2、3の部分であります。これらの点につきましては、研究会において水俣のビジョンを見出していただき、それを実現するためのゴールや目標を決めた上で、石原委員が言われた三つの役割を当てはめていくのが効果的と考えております。

1枚めくっていただきまして3ページに参ります。

2点目、情報発信についてのご意見がありました。

植木委員から、過去のものをそのままアピールするのではなく、広島のように新たなイメージを使ってアピールするほうがいいのではないだろうかという趣旨です。原爆を落とされた広島市に対して、トップ・グラフィックデザイナーたちが毎年、「ヒロシマ・アピールズ」というポスターを1作品つくって市長に贈呈し、原爆を忘れないという活動をやっておられることから、水俣においても新たなイメージをビジュアルコミュニケーションやビジュアルランゲージのようなものを使ってアピールしていくことができると思われるというご意見でありました。

次のページに行きまして、3点目、フューチャーセッションについてのご意見がありま

した。

フューチャーセッションというのは、10年先、この水俣で実現させたい未来について、市民の皆さんのアイデアを引き出し、そして話し合い、具体的に未来の姿を描き出す場です。2014年12月から始めまして、これまで15回行っております。

このフューチャーセッションにつきましては、声なき声を拾い、市民の気持ちを高めて共有する、そのような方策として重要な活動だと思われるので、今後、未来新聞にデザイン等の要素を入れて、市民に伝わりやすいものにするのがいいのではないだろうかというご意見がありました。

4点目、水俣の未来のビジョンについてのご意見でした。

植木委員から、ロケーションの美しさを出すことに加えて、健康という面で問題を抱えているまちなので、美しい環境と健康で「美健」や「美」というのはどうだろうか、また、新しい水俣モデルのようなパイロット的な取り組みができたらいいのではないだろうかといったご意見が出されました。

事務局といたしましては、これからますます人口が減少し、地域社会が縮小していく、その一方で、長寿の社会になり、少子化社会を迎える中で、従来の延長線上ではなく、一点突破型の提案が必要との意見を踏まえまして、環境を切り口にした取り組みが高く評価されている反面、市民の健康につきましては、改善すべき部分がかかなりあり、国水研の使命でもある地域の福祉向上という点からも積極的に取り組む必要があると考えているところであります。

以上で資料2の説明を終わります。

【永松座長】 どうもありがとうございました。

それでは引き続きまして、資料3について、熊本県の地域振興課がお見えでございますので、内容についてご説明をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

【熊本県（入船課長補佐）】 熊本県の地域振興課から参りました入船と申します。

今、お手元に参考資料3と4ということでお配りさせていただいておりますのが、水俣・芦北地域振興計画です。

これは二つの冊子から成っております。水俣・芦北振興計画は今、第六次ですけど、5年間の基本構想の計画がこちらの基本構想編です。そしてもう一つ、28年度実施計画編というものがお手元にありますが、これは単年度の計画として策定したものです。この二つが現在、水俣・芦北振興計画ということになっております。

この第六次の振興計画については昨年7月に策定いたしました。熊本県は水俣・芦北地域の振興については、昭和54年以来、水俣・芦北地域振興計画に基づいてやってきていまして、皆さんがいろいろな地域創生のビジョンを研究される中で、この計画を知っていただいた上で検討していただくと非常にありがたいと考えております。そういったことから、今日の機会をいただいて、国水研に感謝したいと考えているところでございます。

では、説明をさせていただきます。

まず、もうご存じだろうとは思いますが、水俣・芦北の現状について簡単におさらいさせていただきます。

まず、人口です。今、5.1万人で、昭和30年からの59年間で約半分の51.5%に減少している状況です。ピークが昭和30年ごろで約10万人でしたけど、今は半減しています。熊本県は、昭和30年で大体189万だったのが、平成17年は184万、平成26年179万で、昭和30年を100%とした場合、5%ぐらいしか減っていないんですけども、水俣・芦北についてはかなり人口が減ってきたというところが現状でございます。

昭和54年にこの振興計画を策定したんですけども、このあたりが大体7.1万で、ここからの減りぐあいよりも、昭和30年から50年のほうが減りが大きくて、振興計画にはそれなりに意義があるんじゃないのかなと考えております。

あと、水俣・芦北の特徴は、高齢化率が県内の地域別でいくと一番高いということです。現在、37.1%ということで、県の平均より10ポイント近く高くなっているところでございます。

それから、産業と雇用の情勢ですけども、今、人口減少に伴い就業人口が減少しています。そして、よそもそうですけど、農林水産業、製造業の就業人口が著しく減少していて、サービス業が増えてきているという状況にあります。

あと、今は第五次計画の期間中なんですけど、第五次計画を策定したのが今から5年前で、5年前は求人倍率が0.35ぐらいでした。県全部で0.51ぐらいということで極めて有効求人倍率が低かったんですけど、第五次でのいろいろな取り組みの効果があったと考えておりますけど、平成26年が0.96、平成27年の11月時点で有効求人倍率は1.18倍です。有効求人倍率が、熊本県の中で最下位だったんですけども、現在は、地区別でいったときに熊本県内で第5位で、かなりよくなっているという状況です。

それから、代表的な産業は農業ですけど、水俣・芦北の特徴としまして、リアス式の海岸で山がずっとありますので、1戸当たりの経営耕地面積が県内の半分程度と、狭いです。

それから高齢化が進んで、耕作放棄地の率が高く、生産量ではデコポンが代表されますけど、かんきつ類が県内シェアが高く、地域の基幹作物になっているということが特徴です。

高齢化率は非常に深刻で、農業者の高齢化率は65歳以上が64.9%です。県内は大体半分ということで非常に高いです。あと、耕作放棄地率も高く、そこら辺が課題と思っているところですよ。

次に所得水準ですけども、1人当たりの市町村民の所得について言いますと、24年の統計だと思いますけど、熊本県は244万1,000円で全国で37位ですかね、あまり高くはないんですけど、水俣・芦北についてはそのまたさらに82.5%といったところで、極めて所得水準が低く、厳しい状況であるところがございます。

以上が、簡単に言いますと、この地域の現状といったところで認識していただいた上で、水俣・芦北振興計画について説明させていただきます。

まず、水俣・芦北地域振興計画の成り立ちです。参考資料3の基本構想の、せっかく配っていただいたんで、63ページをあけていただいてよろしいでしょうか。

まず、もともと公害の原点の水俣病が、昭和31年ですかね、発生して、どこが原因なのかとか何が原因なのかについて、ずっと10年、20年と話し合われました。その間に、自然環境の汚染、甚大な健康被害、経済基盤の脆弱化、地域の活力の疲弊というようなことがありました。水銀が原因だったことが明らかになったのが、昭和40年代前半で、昭和52年に熊本県から国に対して、63ページにあります水俣病対策に対する要望というものを出しました。

これは、水俣病対策のための特別立法をつくってくれという要望になっています。当時、福田内閣だったんですけども、検討してもらおうように要望を国のほうに上げまして、その結果として、71ページにありますけれども、昭和53年6月の閣議了解で、福田内閣が水俣病対策はこういうふうな方針にしますというのを出されました。水俣・芦北地域の振興については、72ページの第4に当たりますけど、熊本県の具体的提案を待って対処するという形になりました。要するに、熊本県はいろいろなことで水俣病対策として地域の振興をやってくださいと。熊本県は、その法律をつくってくださいと言ってきたんですけど、その結果として、熊本県が具体的な提案を出せ、それに基づいて事業をやっていくというようなことで国のほうで閣議了解がされております。

これが水俣・芦北地域振興計画のもとになります。以下、第六次まである計画の第一次の計画は、水俣・芦北地域振興の国への熊本県からの具体的な提案、いわゆる提案書とい

うようなものであると、水俣・芦北地域振興計画はそのような成り立ちとなっております。

それから毎年、基本構想に基づく毎年の計画をつくって国のほうに提案をしているというようことになります。

水俣・芦北地域振興計画は今まで37年続いていますけれども、それを大きく、一次から五次までどういう形で進んできたかというのを、次にご説明させていただきます。

一次につきましては、「環境復元への取組み」といったことで、昭和54年から60年までの7年間だったんですけど、まず、水俣湾を埋め立てるところから始まりました。

その当時、水俣湾は埋め立てとかなっていなかったんですけど、水俣湾の公害防止事業によるに水俣湾の埋め立て。それから、芦北地域については広域営農団地の農道の整備、水俣川の広域河川の改修、こういった環境復元への取組みをやってきました。

第二次は昭和61年から平成7年までの10年間なんですけど、「高次な地域イメージの確立」ということで、南九州西回り自動車道の整備、シーサイドロード、県立あしきた青少年の家の建設、こういったことを国に要望してきました。

それから第三次が「水俣・芦北地域の活力の再生と創造」ということで、新幹線、それから水俣エコタウン、この辺の整備のほうが入っているというようなことで、主にインフラの整備をこの27年間のうちにやってきたというような状況で、平成17年まで来ています。

次に、第四次の水俣・芦北地域振興計画ですけど、これについては5年間でやっています。それまでの第三次までのインフラ整備をもとに、ソフト事業がかなり組み込まれてきております。水俣市の環境モデル都市への認定。ごみの分別とか環境ISOへの取組みとかもこの時期です。あと、フィールドミュージアム事業、これは当課でやっているんですけども、産業観光とか、水俣・芦北地域全体をミュージアムに見立てた上での観光振興にも取組み始めたところがございます。

そして今が第五次の水俣・芦北地域振興計画です。あと2カ月ですけども、テーマは「環境への負荷が少ない持続的に発展する地域づくり」ということでやってきています。

この辺になるとハードというよりソフト事業がほとんどになってくるんですけど、後でまた簡単に触れますが、雇用創造協議会という団体による雇用創出の取組み。あと、胎児性水俣病患者の家族向けの入居施設の整備。それから一番大きいのは、一つの節目だろうと私は考えてますが、水銀に関する水俣条約外交会議と全国豊かな海づくり大会を平成25年度に行いました。ここまでこぎつけたといったところで、第五次水俣・芦北地域振興計画は進んできたところです。

以上、第五次まで進んできたんですけれども、来年、水俣病公式確認60年になりますが、それでもまだ課題が解消してないところで、第六次計画をつくるのか、つくらないのか、まずそこから検討を始めました。

課題としては、先ほど申し上げましたように、歯どめのかからない人口減少、県平均の8割ぐらいという市町村民所得の低さ。それから、農林水産業における生産者の所得向上、担い手確保が今からもっともっと必要だという状況。観光については、今、日帰り客が過去最高で飛躍的に伸びていますが、宿泊客数が伸び悩んでいること。それから、2月に津奈木インターが開通しますけれども、南九州西回り自動車道をはじめとしたアクセスがまだ完璧でないなど、いろいろなところでインフラ整備が必要なこと。それから、胎児性水俣病患者を含む、障害者やその家族の高齢化、地域のニーズに応じた子育て支援、そういったところも考えていかなければならないということ。それから、医療従事者の確保、在宅医療・介護サービスの提供体制の整備。それから水俣病の歴史と教訓、環境の大切さの啓発活動をきちんと次世代に受け継いでいかなければならないといったこと。整理すると、そういった八つの課題が出てきました。

そうした課題を整理することと、今後の社会情勢等の変化を踏まえた取り組みをさらに推進していくことが必要だろうと考えまして、一昨年7月に水俣・芦北地域振興計画を策定するというところでございます。それに基づいて、今後も国の支援を最大限に活用しながら、県、それから市町が一体となって、引き続き振興を行っていくということにしたところです。

そういった「やります、つくります」といったところから1年間かけてこの計画をつくりました。先ほど言いましたけれども、第五次計画は先ほど申し上げましたように、「環境への負荷が少ない持続的に発展する地域づくり」といったところでテーマを考えておりましたけれども、第六次ではこれをどうするのかといったところからまず始めて、第六次計画のあるべき姿というか目指すべき姿として、基本理念「環境と経済の好循環を実現し、『地域の活力と新しい豊かさ』を生み出す地域社会づくり」としています。

どういうことかと言いますと、まず環境に軸足を置いた産業展開により、地域経済が発展し、それが地域、社会全体の環境向上につながる好循環を実現する。以前の「環境への負荷が少ない持続的な」というところから、もうちょっと積極的に踏み込んで、水俣が今まで環境都市ということでやってきたところを、さらにプラスで生かして好循環を実現するということです。それから、将来にわたり「地域の活力」を維持していくこと。

もう一つが、「地域の絆・家族の絆を取り戻す」といったところで、都会を中心とした従来の価値観でははかれない「新しい豊かさ」を生み出すということです。そういった価値観、「新しい豊かさ」を生み出すといったところで考えていきたいというのを、この六次計画の目指すべき姿としてあらわすことにいたしました。

それに基づいて目標を四つ掲げています。ご存じだと思いますけど、地方創生というようなことで去年から国を挙げてやっていますけれども、その動きと連動すれば、補助金などいろいろなところで絡んでくるという思いもあって、国の地方創生の「まち・ひと・しごと」と連動する形で目標をそれぞれ掲げました。

その中でも、「しごと」ということで、地元の人たちが一番望んでいるのは、産業が発展して雇用が生み出されることで、そこを受けて、目標1に「高い付加価値を生む産業づくり」ということで、仕事を最重点としました。それから「ひと」ということで、「地域を担う人材づくり」「地域で暮らす安心づくり」。そして「まち」ということで「地域の活性化を支えるまちづくり」としているところでございます。

その中で、例えば目標1の「高い付加価値を生む産業づくり」については、後で見ただけならばと思うんですけど、四つ、稼げる農林水産業だとか観光振興だとかをやっていきますということを掲げています。

目標2については、産業人材の育成と、水俣病の歴史教訓とか、環境の大切さを伝える人材の育成、この辺をやっていきます。

「地域で暮らす安心づくり」については、五次もそうだったんですけど、引き続き、水俣病被害者の方をはじめ、誰もが生き生きと安心して暮らしていける地域づくり。それから、子育てですね、安心して子供を生み育てられる地域づくりを目指します。

それから目標4ということで、先ほどのインフラ整備ですね。高規格道路、高速道路、あと、情報通信網、交通網整備。この辺のインフラ整備をするとともに、地域コミュニティの強化、県南地域をはじめとする近隣地域との連携強化、そういった地域のコミュニティの強化もやっていきたいと考えています。

そういったことで1年かけて計画を策定しました。どういうふうに計画を推進、つくっていくかという過程で、熊本県のほうでは推進委員会というものを持ち議論しています。これは副知事が座長で、委員が教育長、あと熊本県でいえばトップになる各部長で構成しています。それから、地元の水俣・芦北については、市町長をはじめ議長さんが協議会の委員になっていただいて、この中で議論をして今回作成しております。

そしてこの計画については、毎年ですけど、国の9省庁にご説明しに、作成し仕上がった後に伺っているというところがございます。これは、各省連絡会議という形で行っています。

あと、ここも後でご説明しますが、高い付加価値を生む産業づくりについては、例えば42事業で、それには個別にこういう事業が張りついている形になります。それが全体として、参考資料4の六次計画のこういった形——個別の事業になっています。

今度は28年度の各事業を簡単に説明させていただきます。

まず、一番初めに、地域産業の振興ということで、先ほど言いました水俣・芦北地域雇用創造協議会を中心に、地域と一体となった第一次産業の振興とか6次産業化とか、こういったことをやっていきますということで、掲げてます。

これは、第五次計画のときにも掲げたんですけど、1市2町と産業関係とか医師会とかいろいろな団体が入ってつくっている協議会です。その事務局の職員は、県職員、市、町の職員です。何をやっているかという、産業の振興ということで、いろいろなところの産業のお手伝いです。例えばマガキの試験養殖をやっています。今、カキ小屋を芦北でも水俣でもいろいろなところでやっていて結構好評なんですけど、マガキの養殖をやっています。あと、おもしろいのが、水俣のアボカドの実証栽培。あと3年ぐらいしたらアボカドが、国内で初めて、減農薬ですか、そういったところで栽培されると。普通、メキシコで栽培されるものなんですけど、日本で最初じゃないんですけど栽培されるというようなことで頑張っておられる方を支援する。あと、展示商談会ということで、国内とか外国とかでいろいろな商談会に行ったりとかそういったことをやっています。

あと、中山間地域の総合整備事業ということで、いろいろと圃場整備などをやっています。

あと、水俣川の河口臨海部の振興構想の推進といったことで、丸島漁港を、これは水俣市がやっておられるんですけど、あとエコタウンですね、この辺をどういうふうにするのかという計画をつくってやっていくというのがこの28年度の計画に入っています。

それから、津奈木の「赤崎水曜日郵便局」ですね。海の上に廃校の小学校が建っていて、ここは学校としては利用してないんですけど、ここを生かして観光振興とか地域の振興とかやっっていこうということで、ここにキャンプ場をつくったりとか地元の人たちがいろいろなことでワークショップをやりながら考えてやっているというのが、赤崎小学校の活用推進事業です。

それから、芦北町では、計石港という港がありまして、そこで観光うたせ船というものをやっているんですけど、例えば雨のときとか船自体が出せなときにということで、直売所や加工施設を一体的に整備して、ここ自体の観光振興の拠点にしようという取り組みをやっています。こういったことが今度の計画に入っています。

地域を担う人材づくりでは、これはどこでもやってますけど、水俣市もかなり力を入れてやっておられる移住・定住というのがあります。

それから、水銀フリー社会に向けた取り組みで、水銀に関する水俣条約外交会議で水銀フリー社会の実現ということで、熊本県としては先導的に取り組んでいくということでやっています。

それから、地域で暮らす安心づくりの例としては、保健福祉の医療の向上で、今もやっていますけど、健康管理事業とか医療事業、それからリハビリテーション事業、障害者の相談とか見守り活動、こういったことをやっています。

それから、明水園の個室化です。在宅の胎児性水俣病患者の方とご家族が、高齢化で非常に不安な面もありますので、不安解消等のために明水園の個室化を進めています。

目標4で、最後ですけれども、南九州西回り自動車道は、先ほど申し上げましたように2月に津奈木が開通します。そして、平成30年に水俣インターが、新幹線の駅のあたりができる予定になっています。そういったところをきちんと進めて、インフラ整備をやっていくと考えているところでございます。

これが、簡単にいうと主な28年度の実施事業でございます。

以上が水俣・芦北地域振興計画の概要でございました。長い間ありがとうございました。

**【永松座長】** ありがとうございます。ご質問については、後ほど一括して受けることにいたしまして、軽食が用意されておりますので、皆様、適宜お食べになりながら進めてまいりたいと思います。

それでは、資料を一通り説明していただいた後で、資料に関する質問等についてはお受けしたいと思いますので、引き続きまして、資料4について事務局のほうから説明をお願いします。

**【岩橋室長】** では、資料4について説明いたします。

資料4は、これまで15回開催いたしましたフューチャーセッションにおけるアイデアを会場ごとにまとめたものです。本研究会において検討いたします重点分野の考え方①から④に該当しそうなアイデアには、それぞれマークをつけまして色分けしております。アイ

デアの右側には参考資料5の該当ページを括弧書きで入れております。また、各会場における参加者数を延べ人数として明示しております。これまで延べ327人からアイデアをいただき、さらにアイデアボードというもので今でも広くアイデアを集めているところであります。

フューチャーセッションにおけるアイデアにつきましては、その都度、「水俣未来新聞」という形でまとめております。詳しくは参考資料5としてカラー刷りを添付しております。また、本日会場の入り口に、実物を3点パネル展示しております。後ろの壁にパネルを二つ掲示しております。

以上でございます。

【永松座長】 どうもありがとうございました。

それでは、委員の皆様からのご意見は後ほどお受けすることにして、これまで説明いただいたことに関しましてご質問があれば、承りたいと思います。

特にございませんでしょうか。

【松永委員】 フューチャーセッション参加者は、どういう形で、どういう人を募集しているんですか。

【岩橋室長】 国水研のホームページに案内を載せ、あわせて、市の広報紙にも載せていただきます。今、会場として使っております、ふれあいセンターやこどもセンター、そういったところにチラシを置いたり、市内要所にポスターを掲示していただいたり、チラシを置いていただいたり、その都度ポスターやチラシを持ってあちこち回って、なるべく広く集めようとしております。

【松永委員】 実際に参加される方の年代は。

【岩橋室長】 これまでの参加者の年代は、高校生から上は70代くらいですかね。はっきりとは聞きにくいので。

【松永委員】 どの年代が多いとかないんですか。ばらけていますか。

【岩橋室長】 この年代がというのは特にはないかと思います。

【松永委員】 ありがとうございます。

【大竹総務課長】 どちらかというと若くはない感じの人が多いですかね。

【岩橋室長】 そうですね。

【松永委員】 ありがとうございます。

【永松座長】 ほかにご質問は。石原委員どうぞ。

【石原委員】 県の計画について少しお伺いさせていただきたいのですが。

水俣・芦北地域の振興計画ということで大変よく理解できました。ありがとうございます。環境を基軸にした発展ということに関しては、90年代の最初とかであれば、水俣ならではのことがあったと思うんですけど、今となっては、いい意味も含めて世界全体の動向かと思ひまして、水俣の宝というか水俣の財産、経験もしくは特性をどう生かしていこうかといった、熊本県全体の振興策全体の中での位置づけというものはあるのでしょうか。例えば、阿蘇でも環境のことをやっていますね。持続可能性ということでは、水俣でもやっている。そういう中での全体としての位置づけですね。

【熊本県（入船課長補佐）】 環境といっても、阿蘇の環境と水俣の環境とでは捉え方が違うのかなと、そんな気がするんですよ。特に水俣の場合、平成23年に環境首都に選ばれていて、それまでの環境への取り組みは、先ほどのISOの話だとか、やってこられていて、阿蘇の自然の環境というのとはちょっと違う、都市型の環境というか。あと、水俣病の問題と対峙していくことで生み出された皆さんの環境の大切さへの意識とか、そういったところが違うんだろうなと思ってます。

それと、現在、環境の取り組みで強みになっているのは、エコタウンとかはもちろん強みなんですけど、私たちが考えている強みは、サラダたまねぎとか減農薬でつくったりしてますけど、農業です。若い人たちが、今ここに来られている人たちが、もじよか堂さんとかご存じかもしれませんが、非常にこだわって農薬を使わない、いい肥料を使う、化学肥料を使わない、そういったことにこだわる人たちが、阿蘇でもいらっしゃるかもしれませんが、結構いらっしゃる。若い人たちがそういったところを売りにしようと考えているんですよ。新しい世代がそうやって頑張っているところを応援していきたいというのを一つ熊本県としては考えているところです。

先ほど紹介しましたカキ小屋は、雇用創造協議会が頑張っているいろいろやってくれたんですけど、以前は何もありませんでした。水俣病が海から発生したので、魚がなかなか売れないといったいろいろな問題がある中で、今、カキが売れるようになったというのはトピックス的な話だと思います。それは、海の環境が浄化されてよくなったからで、一つの売りじゃないかなと思うんですよ。

カキ小屋ができて水産物が売れるようになったということは、水がきれいということをみんなが認知したということです。もともと我々みんなわかってはいたんですけど、そこら辺をもっとPRしていかないといけないかなと。ですから水俣の売りは、阿蘇も環境な

のかもしれませんし、世界的に環境なののかもしませんが、やはり水俣の環境ではないかと。水俣に住んでいらっしゃる方には、環境で頑張っていこうと我々が言ったら、何か意味は伝わるだろうかと、何か共感を持っていただけるんじゃないかなと思ひまして、六次計画の中では、環境を強みにしていきたいといったところで目指す姿にしたところです。

【石原委員】 ありがとうございます。

【永松座長】 はい、どうぞ。

【勢一委員】 私も地域振興計画についてお尋ねしたいです。内容は非常にわかりやすくご説明いただいたのですが、この計画の位置づけについておうかがいします。熊本県のほかのビジョンや構想計画とこの計画との関連性とか、水俣市とか芦北地区の自治体、1市2町だったと思いますが、これら自治体の総合計画、まちづくりに関わる計画との関係について私がよく理解していないので、ご説明いただければと思います。

【熊本県（入船課長補佐）】 この計画は特異な計画です。先ほど説明を漏らしたんですけど、普通、県がつくる法令上で定められた過疎の計画だとかいろいろなものとは、先ほど申しあげましたように、もともと国への提案書という位置づけで、これ自体は法令に基づくものではありません。だから、何かの縛りがあるわけではないという位置づけです。熊本県が何か縛られてつくる計画ではなく、計画と名前がついてますけど、どちらかというとな提案書的な意味合いが強いのかなと思ひてます。

【勢一委員】 閣議決定に基づく県からの具体的な提案、それを受けて国が支援をするというものです。

【熊本県（入船課長補佐）】 そうですね。

【勢一委員】 その仕組みは説明いただいたので理解しているのですが、地域のあり方をつくっていくといったときに、当然、熊本県の将来のあり方……。

【熊本県（入船課長補佐）】 1市2町との兼ね合いということですよ。

1市2町の総合計画との兼ね合いということ言えば、もちろんこれをつくるときに1市2町に入ってもらって、この計画をつくる中で1市2町の意見を聞き、調整しながらつくっていますので、当然、総合計画にも反映するという形になっています。

今、地方創生の戦略をつくっていますが、地方創生の戦略より1年前にこれができるんです。というか、7月にできています。市町村がつくっている地方創生戦略の水俣・芦北版という位置づけで今回これをつくっています。要は、地方創生戦略を市町村がつくるときには、これと同じようなラインでつくってもらおうという形で考えて、この計画自体

をつくっているという形だと考えています。

【勢一委員】 市町の地方創生戦略にこれが反映されていくという形ですか。

【熊本県（入船課長補佐）】 そうですね。

【勢一委員】 県の計画とのリンクというのは特には予定されていませんか。

【熊本県（錦戸主幹）】 そうですね。県の計画はいろいろございますけれども、それと乖離したものではありません。福祉分野、農業分野などそれぞれ計画を持っておりますけれども、その政策とも整合がとれる事業をこの計画にも盛り込んでまいりますし、そこは整合しているものになっております。

【熊本県（入船課長補佐）】 基本的に、熊本県の場合、4カ年戦略というものがありまして、それが熊本県のいわゆる総合計画です。今の蒲島知事が4年間の任期の初めにつくったものです。その中で、水俣・芦北の振興については基本的にこの振興計画に基づいてやっていくということを記載してまして、そのように位置づけているということです。

【勢一委員】 それでは、位置づけられていることですね。わかりました。

ありがとうございます。

【永松座長】 少し補足すると、もちろん言われたみたいに各種分野の計画があって、それとの整合性はとれる形になっています。そして、地元からの意見も吸い上げる形になっています。ただし、水俣・芦北地域は特に水俣病で疲弊しているのです、特にその地域についてはこういうことに力を入れてほしいというものを計画の中に盛り込んで、地域の再生回復を図ってほしいという趣旨でもともと計画がつくられています。その際に、地元だけでは特に財政面で問題があるので、国も積極的に支援してくださいと、そういう趣旨でつくられたものです。

ほかにご質問ございませんでしょうか。

【牧迫委員】 フューチャーセッションは多世代で交流する機会、非常に興味深い場だと思ったんですけど、この後に、ここに出てきたいろいろな意見がどこかに反映されるような機会であるとか、その先の活動は見据えているのでしょうか。

【岩橋室長】 フューチャーセッションは市民の皆様からアイデアを引き出す場です。そのアイデアだけでは、市の政策や事業につながりませんので、この研究会でビジョンを想定し、施策や事業をご検討いただく際に、そのアイデアを使っただけであればと考えているところです。

【牧迫委員】 参加された方のご意見といたしますか、何と云うか数字にできないような

効果といますか、何か感じられることってございますか。

【岩橋室長】 普通ですと、議論して、どちらか一方が正しいとか正しくないとかいうことが多いと思うんですけど、フューチャーセッションはアイデアですので、お互い出したものを、よりいいアイデアにすることができます。お互い一緒になってアイデアを高められたという実感が湧いてきたとき、とても喜びが大きいですね。1回当たり2時間半ぐらいですが、その都度、参考資料5のような新聞をつくっておまして、今日、後ろにパネル展示しておりますけれども、ああいったものができ上がったときに非常に喜びが大きいですと感じております。

【牧迫委員】 印象ですけど、何か一部でも市の政策だとか事業の1個に乗るような形で発展していく可能性があれば、参加する方も、「ほんとうに形になるんだ」と、本気で、この市、地域を考えて、未来を見てくれるんじゃないかと感じておりました。

これは意見ですが。

【岩橋室長】 そのつもりで取り組んでいただきたいと思いますところですよ。

【永松座長】 ですから、このフューチャーセッションのような形をもっと生かすための仕組みの提案というの、この研究会ではできていると思っています。

【牧迫委員】 ありがとうございます。

【永松座長】 ほかにご質問ございませんでしょうか。

【勢一委員】 今日のご説明の中で、健康問題が非常に深刻であるという説明をいただきました。不勉強で恐縮ですが、その原因をどのように考えればいいのか、私には、わからなくて。公害があった経緯で健康問題の課題が今なお残っているということなのか、それとも、それとは違う形の健康問題で考えなければいけないことがあるのか、よろしければ教えていただけたらと思います。

【永松座長】 市からその背景について、わかっている範囲で結構ですので。よくわからなければ、それでも。

【水俣市（和田課長）】 健康高齢課の和田と申します。健康部門を担当しております。よろしく申し上げます。

今のご質問については、5年前から全国一斉に特定健診をやっているところですが、そういう健診の分析等を行った結果、もちろん国保のデータベース等をもとに医療費データを分析した結果、人工透析が多いということが出てきたわけです。ですから、先生のご質問の原因がどこにあるかというところまでは、全く解明ができていなくて、水俣病との

関連といったものもまだ現段階では全くわかっていません。

【勢一委員】 ありがとうございます。

【永松座長】 ほかにご質問ございませんでしょうか。

(「なし」の声あり)

【永松座長】 これまで説明がありましたように、水俣には、産業振興ということで例えば農林水産業、それから観光、あるいは少子高齢化、あるいは環境保全、安心・安全のまちづくりとか、地域の課題はたくさんあるわけですが、この研究会では今回を含めて4回目には研究会の報告書の骨子案をつくる必要がありますので、たくさん時間を重ねて多くの分野について議論するという時間的な余裕もございませんし、国水研が行う研究報告ということでございますから、それを踏まえて、事務局とも相談した上で手持ちメモをつくらせていただきました。

一つは、水俣病の教訓という場合には、環境や健康の大切さを世界に知らしめる、あるいは、地域が失われた環境、健康の大切さを一番よく知っているということではないかと思えます。これまで環境に関しては、さまざまな取り組みが行われてきたわけですが、心と体の健康に関しては、必ずしも環境と同じような多くの取り組みがされてきたわけではございません。

その理由は幾つかあるわけですが、一つには、当初は旧厚生省が所管しておりましたが、水俣病の所管が、公害ということで旧環境庁に変わって、環境庁のほうで水俣病に対応するというので、環境関係に関してはこれまでもさまざまな施策が展開されてきたわけですが、一方、健康に関しては、必ずしもそうではなかったといことがあります。先ほど原因のご質問がありましたけれども、原因は定かではありませんが、例えば健康診断の受診率が県内最下位というのは、やはり意識の問題があるだろうと。本来なら、健康の大切さを知っていれば、逆に、健康診断の受診率は県下トップというのが普通かなと思うのですが、実際は逆になっています。その結果、さまざまな疾病、あるいは、朝食を抜く、深酒をする、あるいは睡眠不足といった生活習慣面に関しても決して自慢できる状態にはないということでございます。

そこで、先ほど申し上げましたけれども、ある程度テーマを絞って議論いただいたほうがいいのではないかと考えて、「健康」を大きくりのキーワードとして使ったらどうかというご提案でございます。

それからその下は、3月に出す予定の本でも引用している部分でございまして、それを

ちょっと抜き出させていただいたものです。健康というのは、もちろん食生活も大事ですけども、そのほかのものとも非常に深いかわりがあるということです。仕事で充実感を持って働いている人とそうではない人では、健康状態というのは明らかに違う。あるいは、人間関係と健康という視点からも、人間関係が悪い場合、さまざまな影響が健康にも出てくるといことです。それから、健康と地域社会については、孤独感を感じている、一人でほとんど誰とも話さない老人の方ほど身体機能の低下、あるいは、死亡のリスクが高くなるといった報告もされております。したがって、健康というものをもう少し広く捉えて、いろいろな地域とのつながり、人間関係、あるいは生きがいというところまで視野を広げた上で、「健康」という大きなくくりで議論すれば、まとまりやすいのではないかと考えた次第です。

それから、「健康と日々の目標」とありますが、健康は我々の様々な面に関係しています。

それから2番目は、「外発的動機付けと内発的動機付け」とありますが、実は、これまでの水俣病対策というのは問題解決志向型、いわゆる本来のノーマルな状態があって、問題が発生したので、その原因を追究してそれを埋めていくというものだったんですけども、一つ大事なものは、未来思考ということから言えば、目的思考型の考え方で、いわゆる目指すべきビジョンとか目的を最初に設定して、それに近づくためにはどんなことをやればいいのかを考えていくというアプローチが必要ではないかと、私個人としては思っております。

もう一つは、私も行政にいたから身に染みて思うんですが、行政がどんなに旗を振っても、当事者たちがその気にならない限り、地域は元気になりません。ということは、市民の方々が、ささやかなものでもいいから関心を持って取り組む、そういうことができるような仕組みをつくって提案していく必要があるだろうと。もちろん、国際的な、画期的なプログラムなどができれば、それがいいんですが、そうでなくても、ごく普通の人たちが一步一步自分たちのやりたいこと、実現したいことに向かっていく、そこにやりがい、楽しさ、充実感などを見出すというのが、健康につながるんだろうと、個人的には思っています。

私の個人的な意見も含めご説明させていただきましたけれども、皆様に改めてご提案させていただきたいのは、大きく「健康」という束ね方をしてはどうかということです。先ほどのフューチャーセッションもありますし、まちづくりのことも生きがいづくりに入ってくると思いますので、広い視野から見た健康という、そういう束ね方をしてはどうかと

いうご提案でございます。皆様のご意見を伺いたいと思います。

【松永委員】 私も、テーマを絞ったほうがいいと思っておりまして、座長から提案があった心と体の健康というのは、包括的でありながら、きっちり焦点が絞られているという点で非常にいいんじゃないかと思っております。

あと、座長からもありましたけれども、市民のニーズだとか主体性みたいなところをどうつくっていくか。テーマの絞り方と手法の絞り方みたいなところが必要なのかなと、聞きながら思っていました。

【永松座長】 ありがとうございます。

ほかにご意見は。

【藤本委員】 なぜ健康診断を受けないのか、地域の人たちがどう考えているのかは、痛いほどよくわかるというか…。

地域のコミュニティが崩れてきてしまった経緯とか、その中でどういう人間関係がまちの中であったかは、小さいときから見てきましたので、何が原因で、どういうことをすればいいのかは、効果があるものと、ないものって、何となくもうイメージはありますね。

水俣の場合、地域の人たちがやる気を出せるかどうかがキーだと私は思っています。例えば、先ほどお話を伺っていてちょっと思ったのは、「これなら、こういうことをちゃんと市として取り上げてくれるんだ」「自分たちの意見がちゃんとまちづくりの役に立つんだ」と、そういった小さな意見が形になっていくことが積み重なっていくと、あきらめ感からやる気へと、つまり鍵になるのは市民の人たちの「あきらめ感」をどう変えるかだと思うんです。健康診断も含めてです。それは私よりも上の世代には特に多いと思います。一方で、新しい世代の若い人たちが新しいものをつくり出していこうとしていまして、そういうことへはぜひ応援していただきたいなとも思います。

ですから、健康という大きなくくりの中で、ほんとうに地に足の着いた水俣市への政策提言ができるようなものというのは、(身内な言い方になりますが)市民をどう動かして、市民にどうやる気を起こさせるかではと。生きがいだったり、人とつながることをもう1回思い出してほしいというか。

すみません、ちょっとはつきり言えないところもありますけれども。

【永松座長】 ありがとうございました。

深水委員は何かご意見ございませんか。

【深水委員】 健診率がそんなに低いとは知りませんでした。我々は医院で、病気の方

しか診ませんので、健康な人とはあまりおつき合いがないというか。うちの方針は、病気の方だけじゃなく、家族を含めてその方の家庭環境からトータルにずっと診ていきたいというものなんですけれども。

いろいろあるんでしょうが、結構、水俣というところは、地域のつながりはきちっとしているなど、私は水俣の生まれ、育ちではないので、そう感じます。地域を非常に大事にされていて、横のつながりが強いです。それをうっとうしいと言う方もおられるのかもしれないけれども、うちの患者さんを見ている限り、皆さん、とてもいいところを持ってあるなどは思います。

水俣病がやはり非常に影を落としているなどは感じます。水俣病をしっかり認めたいという人と、できることなら目を逸らしたいという人とに分かれるなどは感じます。私の目は外からのものかもしれませんが、水俣病というのはもっとアピールすべきものではと。アピールというのはおかしいけれども、世界の水俣というふうにもっと言っていいんじゃないかと思うんです。完全に水俣病を克服できたわけではないけれども、今は環境もすばらしいし、若い世代が自分たちで頑張っているということをどんどんアピールされているからですね。もっと世界に、水俣はこんなに、水俣病を経験してすばらしい地域になったんだということをもっと言っていいんじゃないかなと思います。世界の人に尋ねても、熊本県は知らなくても、水俣と言え、ああ水俣、知っていると言われるぐらいですから、もっと水俣ブランドを確立していったいいんじゃないかなと思います。地域のいいところも残っているしですね。

【永松座長】      ありがとうございました。

じゃあ、植木委員。

【植木委員】      私は、先ほど座長が示されました「健康」については、私も前回、「美健」ということを用いて言ったんですけれども、今後のbehaviorのいわば幹というか、核にしていくという部分で、健康というもので束ねていくことに賛同します。

この考え方は非常にすばらしいなと思って聞いていました。ちょっと余談になりますが、私は結婚式のスピーチを頼まれることがよくあるんです。そうすると、昔、GEが長生きをしている夫妻を調査したデータがあって、同じ寝室、同じベッドに寝ている夫婦が一番長生きしているんだと。ですから、ある意味、健康という部分でやったときに、家族、家庭の中での健康に対する意識を変えていくようなモデルだったり、そういうものもできたらいいなと思います。このハーバードの調査なども非常にいいデータが出ていますし、や

はり幸福感、健康ということは核心ですし、ハッピーな感情を持てるかどうか、それは最終的に顔に出ると私は思うんですよ。いろいろな人たちに会ったりしていても、健康的な人はそれなりの顔をしているんですね。首長さんなんかといろいろな話をすると、非常にストレスがたまっていると、人間は顔が変わるんですよ。(笑)ですから、顔相とか人相という世界もあるんでしょうけれども、ほんとうにハッピーな人は顔も輝いています。その健康という部分で水俣が新たなパイロットをつくっていくということでもいいですし。

もう一つはカキ小屋。私はこれはすばらしいなと思います。健康という面で行くと、美しく健康的にというと、カキは亜鉛とか、マグネシウムとか豊富で、成人病で糖尿病患者なんかはマグネシウムを摂取したほうがいいらしいんです。また、カキはきれいなところじゃないとできないわけですから、今までの水俣の負のイメージをプラスにしていくことに十分につながっていくトリガーになるんじゃないかなと。カキ小屋はすごくいいなと思いましたね。エーゲ海的な景色の中で、ヨーロッパのようにカキを食べに来て何日か夫婦がステイして帰るような施設を、いわば環境デザイン的にもつくっていくようなことができるのかなと。

ちょっと調べたら、私がこの間言った「美健」というキーワードの商標は取られていなかったです。日清食品とかメナードとかで、商品としては、コーヒーとかいろいろありましたけれども、サービス分野、都市計画分野においては「美健」というワードは出ていなかったことを申し添えておきます。

**【永松座長】**      ありがとうございました。

石原委員は何かございませんか。

**【石原委員】**      健康に焦点を当てるといのはおもしろいなと思って伺っていたんですけども、三、四点を思ったことをお話しします。

水俣の特徴が何なのかと考えた場合、環境だと今まで言われてきました。私は紛争解決学が専門で、被害、加害の状況をどう乗り越えて、過去にあった被害加害の経験を未来にどう生かしていくのかといった紛争解決・平和構築学という分野をやっておりますが、そういう意味では非常に、加害、被害の問題を地域で抱えた中からもやい直しを含めて新しい環境とビジョンをつくっていくみたいな、紛争解決・平和構築モデル都市といったところもほんとうはすごくおもしろいなと思っているんです。ただ、それは一体何なのかというのが普通の人にはわかりにくくて、どうしようかなと思ったところがありました。まず、私の専門のところから見たら、そういう点がおもしろいなと。

それを踏まえた上で、健康ということが2点目なんですけれども、環境と健康が奪われた地域、そして、環境と健康の大切さを一番わかっている地域であるということですから、先ほど先生がおっしゃられた健康という概念の幅広さで、例えばWHOの身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康、スピリチュアルな健康という視点で、水俣は非常におもしろいなと思っています。さらに言えば、最初に言った紛争解決というような差別・偏見がなくなるとか、地域のきずなを取り戻すというのは、まさにWHOの社会的健康に当てはまりますので、健康に焦点を当てて、地域の紛争解決じゃないですけども、きずなをどう取り戻すのかということを経済健康増進という点で含めてみるのはおもしろいなと思っていました。

3点目からは逆に、不安に思った点です。健康ということに焦点を当てると、どこもかしこも、健康をキーワードにしたモデル都市は多くて、九州ですと久山町など他にも有名な地域はありますので、それらとどう差別化していくのか、そこが一つ心配になった点でした。

4点目ですけども、そう考えるとやはり、水俣の特徴は健康だけではなくて、例えば、環境と健康と経済が共存する都市とか。全部Kでつながると思ったんです。健康・環境・経済、そしてコミュニティもKで、幸福もKです。そういったつなぎ方に水俣らしさがあるのかなど。

ちょっと雑多なのですが、以上のようなことが感想でした。

**【永松座長】** 今、石原委員が言われたようにすることによって、水俣ならではのオリジナリティのあるプログラムなり取り組みができると、私も思っています。

これまで委員の皆様からいただきましたけれども、一つは、大きくりのテーマとして健康はいいだろうと。ただ、具体的にどういう取り組み、プログラムを提案するのか。もう一つは、その中で、市民の参加をどのように実現していくのか。そういう大きな二つがあって、その際に、いろいろな意味で、「美健」という言葉も出ましたし、5Kだったですか。

**【石原委員】** 7個ありましたが。

**【永松座長】** 実は、この研究会の大きなキーワードは健康で、その健康の一環なんだけれども、それが地域経済の振興にもつながるし、水俣の美しさを内外に知らせる情報発信の資源にもなるしと、そういういろいろな部分が出てくるように思います。

そのほか何でもどんどん、アイデアフラッシュレベルで結構でございますので出していただくと、事務局でうまいぐあいにまとめてくれると思いますので。

はい、どうぞ。

**【植木委員】** 先ほど紛争の話をされましたけれども、水俣病について、過去のそういったことを知っている人たちがいて、我々の世代は知っていると思うんですけども、若い世代は知らない人も多いと思うんです。ですから、あえて過去の云々ということよりも新しく、カキ小屋であったり新しいbehaviorを行って行って、それが健康につながっていくという。そこで、「何でこういうものが背景としてあったの」といったときに、水俣は過去にこういう経験をしていて、それを踏まえて乗り越えているんだと。そのほうがストーリーとしては美しいかなという気はしました、個人的な感想としては。

**【永松座長】** 私がアメリカに行ったときも、立ち直っている地域は、地元の人が、いかに自分たちが、新しい地域を創っていくかというのを熱心に話しますが、そうでない地域は、30年前、50年前、100年前のことをずっと、だから今こうなんだという話をします。過去の話をしていても未来はつukれないので、言われたように、未来をつくることによってその過去が生かされるという。

**【植木委員】** そうですね。ポジティブシンキングという感じですかね。

**【永松座長】** はい。やはり、地域の人たちが、地域の歴史は自分たちがつくっていくという気持ちになるのが一番大事かなと。そういう意味で、フューチャーセッションは生まれたばかりの卵ですけども、こういう試みがだんだん広がって、そのアイデアに深みが出て、現実味が磨かれて、それが一つでも二つでも実現することになれば、地域がかなり変わっていくかなと、個人的には思っています。

**【植木委員】** フューチャーセッションの新聞のことでちょっと気がついたんですけども。日付が打ってあるじゃないですか。この日付がどういう意味で打たれているのかを。未来の新聞だから2025年の記事があつたりするんですが。

何月何日は何の日かなんてあまりこだわりはないかもわからないですけども、例えば1月31日は何の日か知っておられる方いますか。「1（アイ）3（サ）1（イ）」で「愛妻の日」なんです。そういうものをいわば365日分つくとか。水俣にもいろいろな記念日があるでしょうし、フューチャーセッションで新聞をつくってもらうときに、今日は何の日、何の月と、いろいろな日にちがありますよね。いい夫婦の日——11月22日とか。そういうところから、じゃあ、未来のいい夫婦はどうなっているのといったことのアアイデアを出してもらったり。365日日めくり未来カレンダーみたいなものを作っていくと、おもしろいんじゃないかと。

アイディエーションさせるときは、発想のネタみたいなものを示したほうが、アイデアが出やすいと思うんですよね。漠然と2025年1月5日と言うよりも、1月5日はこういう日だから、じゃあ25年後はどうなっているのと、そうやって落とし込んで考えていったほうがいいかなと思ったりしました。

【永松座長】      ありがとうございました。

そのほかに、何でも結構でございます。はい、どうぞ。

【勢一委員】      水俣病の教訓ということで、失われた環境と健康が大切だと知っているはずというご指摘は、私も非常に心を打たれました。そういう地域になれるために何ができるのかなと思ったときに、ここでも意見が出ましたけれども、地域の誇り、自分の地域に対する愛着、それらがとても大切になるんだろーと思ひます。実は今、全国でいろいろな地域が人口減少と少子高齢化で悩んで、雇用もない、今後どうすればいいかと悩みを深めていて、地方創生でそこを何とかしようという取り組みをやっています。

そのときにやはり、一つ重要になってくるのは、地域の価値をもう1回見直すということです。自分たちが当たり前だと思っていたことが、実は、外から見たら全然当たり前ではなかったという価値はたくさんあるのです。規模が小さいところに行けば行くほど、「うちは何もないですから」とみんな言うけれども、そんなことはない。そこをきちんと考え直すことが、地域の誇りには大切なことなんです。よくシビックプライドというキーワードで、首長さんなどは言われますが、その作業は一つ大切なのかなと思ひます。

私も水俣の人間ではないので外の立場からこの地域を見ると、誇れるものがたくさんあると思ひます。水俣が世界レベルで名前を知られている町だということは、ほんとうにすばらしいことで、ほかの地域はまねしたくてもできないです。水俣条約のインパクト、それがどんなに人間と環境にとって大切か、非常に価値の高いものが一つ既にあると思ひます。

ですから、先ほどのご説明の中では、環境のモデル都市ということで、環境でやってきたものはそろそろ達成したのではないかということでしたけれども、私はそれでもなお環境というキーワードはとてゝ大切で、具体的にどうするかとは別に、重要なキーワードであり続けると思ひています。これだけの知名度の高い分野を捨てるのはもったいないと思ひます。

今回の健康というキーワードも、すばらしい環境があつてこそ健康ですから、これまでの蓄積の上に、では次は何を重ねることができるかという形の議論のほうがいいのかな

と思っています。ですから、環境の成功体験というのを次の健康のプロジェクトにつなげるようなことができれば望ましいのではないのでしょうか。

地方創生という観点から言えば、雇用につながるとか、地域の産業が活性化するとか、人々が幸せになれるもの、こういうところを意識して、プロジェクトが組めるといいなと思っています。ちょっと思いつきですけども、例えば、地産地消というのは、今、非常にどこでもうけていることですが、農産品や海のものに恵まれている地域ですから、地域で地産地消をベースに産業をして、それを市民も活用して健康になるといったことなども考えられます。経済活性化と両立できるようなものもあるので。市民の皆さんのアイデアやイメージを経済の仕組みにつなげていければ、理想的かなと思いました。

以上です。

【永松座長】      ありがとうございました。

環境に関して言うと、自然もそうですが、実は水俣は、従来から住んでいる方々よりも周りの遠くの方々が非常に水俣に関心を持っていて、協力したいということで、かつては環境大学構想というものがあつたんですけども、当時、地元に関心が薄くて、とん挫しました。やっと今年4月から、市役所が、大学のほかの地域の先生たち、水俣病の被害者団体の方たちと一緒に、水俣環境アカデミー構想をつくって、いろいろな研究者の人たちが訪れたときのベースキャンプになるようなところを、4年か5年かかってやっと実現が図られるようになったわけです。

水俣の課題の一つに、水俣にいる人たちがあまり動かないといいますか、周りの人たちが一生懸命、来ては手伝うという形を少しずつ変えていくということだと思います。水俣病は国際的にも非常に知られていますし、水俣の取り組みは誇れるものなんですけれども、それを積極的に自分たちで発信しようとはまではなかなか思わないとか。まあ、これにはいろいろと地域の事情があるわけですけども。ただ、言われたみたいに、水俣はそういう経験をしたからこそ人も自然も美しいんだ、豊かなんだと、そういう地域にしていくことが大切じゃないかなと。このもやい館もそうです。ここは、みんなで仲よく地域で頑張っていきましょうというためにつくられているので。そういうことを率先して実行すること自体が、貴重な情報発信のソースになるんじゃないかと個人的には思っています。

ほかに何かご意見ございませんか。どうぞ。

【石原委員】      すみません、ちょっと雑多になるのですが、それぞれのポイントに関係しているとは思いますが。

1点目としては、前回の第1回目の研究会のポイントにちょっと戻るのですが、午後は参加できなくて申しわけなかったのですが、私が国の研究所の役割は三つあると思っていますということを行ったこの点です。それから、今日、県の計画の中で、熊本県のミッションは特定地域だけではなく県全体ですので、県全体の中で水俣がどう位置づけられるのかとか、それから水俣市の住民は市に責任の主体というか、まさにかかわりがある、自分たちのことであるという意味で言うと、国と県と市の役割についての基本的なところを整理しておくことがとても重要だと、しつこく思っております。それで、松永委員から、私の国の研究所の役割の整理について従来型の研究所の考え方ではないかというご意見をいただいたんですけども、従来型だとは思っていません。むしろ従来型の国の研究所の方が研究者が個人的な知的研究関心に基づいて研究していたパターンが多いのですが、そのように個別の研究者の関心を追究するだけでなく、改めて、国だからこそ、県だからこそ、市だからこそその役割を整理して意識してプロジェクトを行っていくということが重要なと思っていることを、まず繰り返し申し上げたいと思います。

ですが、新しいチャレンジをフューチャーセッションとしてするというのはとても大事だと、意味のあることだと私は思っております。そういう意味で言うと、ちょっと前後しますが、しかし、フューチャーセッションについて、先ほど、一つでもいいので、例えば市のほうで取り上げて実現化するといいいのではないかというお話がありましたけれども、それを市役所の事業としてやるのがいいのかどうかと。もちろん、市役所の支援は必要ですが、先ほど永松座長もおっしゃられましたように住民が動かないと何も動きません。ですから、セッション参加者の住民の方が提案して、「じゃあ自分たちでそれをやってみよう」という住民が提案して住民が主体でやるといったものにできるといいのかな。これをどこかに投げるのではなく、住民が主体でやるようなプロジェクトにまで育て上げていく。難しいことかもしれませんが、それができたらすてきかなと。まさに住民——言った人がやるみたいな感じですね。それをちょっと思ったということが一つです。つまり、市にやってくださいではなくて、住民が、言った人がやるということですね。

もう一つ思いますのは、この国水研の研究所としての役割とも関係するんですけども、水俣の過去を生かして、環境・健康にいいものという取り組みについて、永松座長がおっしゃられたことにはほんとうに私も賛成で、意外に外の人の方が水俣への関心が強い、熱いところがあるんですけども、それと同時に、水俣の中でも、世代によってパーセプションというか認知が違うなと思っております。例えば、若い世代の三、四十代なんかは、

こういう水俣があったからこそというような、健康・環境・経済がつながるような商品開発をして、世界に打って出られるような企業が出てきているんです。そういうのはむしろ、私たち研究者が、水俣にこういう事例がありますよ、と宣伝していつてあげて、どんどん外に出していつてあげることが大切かと思ひます。

むしろ、水俣のことを誇りに思えていない世代はどこなのかと言ったら、もちろん世代で切れるものではないですけども、やはりもっと上の、一番苦勞された世代の方々でして、その方たちなんかは、語れない、話したくないという思ひもあると思うんです。ですから、やはりターゲットをどこにするのかということですね、どの方たちがどういふ思ひを持っていらっしやるのかということをお考えながらやっていくのも必要かなと思ひました。

ちよつと雑多になりましたけれども。

**【永松座長】** ありがとうございます。

今、言われましたように、実は関心も年代によってかなり違っています。65歳を過ぎると、一番の関心は健康になるわけですけども、学生だと友達となるように、関心がいろいろと分かれます。

確かにこれまでは、地域おこしといつても漠然と言つていたわけですけども、そういうことに一番関心があるのは若い世代の人たちですし、健康という気がするのは高齢者だし、全員に全部というのはなかなか難しいと思ひますので、こういうものについては特に若手の人たちに取り組んでもらいたいとか、そういうターゲットを絞つてといふ。若い人たちのほうが、正直、水俣病に関する抵抗感は少ないですし、ある意味、客観的に見られるところがあるわけです。80歳の方に話をしても、なかなか過去の記憶は消えないといつたところがありますので。ですから、漠然と市民と言ふわけではなく、ある程度、ターゲットを絞つて、その人たちに最も効果的なプログラムを提供していくという考え方は大事だと思ひます。

ほかにございませつか。どうぞ。

**【藤本委員】** 私もまさにそこだと思ひます。先ほど人口の減りぐあいのところについて、前回もご説明がありましたか、中学校、高校を卒業した時点で市を出ていく若者も多いんです。私もその一人です。それはなぜかを考えると、今のお話の中で子育て世代の子供のお話がかなくなつたんですけども、国のいろいろな政策のお話を聞いていても、もう少し子供たちの目線でのものもつくり上げていかないといけないのではないのでしょうか。子供が次の時代をつくつていくわけですから、ただ観光で来る人が増えればいいのか

…。それだけではなく、住んでいる人たちが地元へ愛着を持って、子供がしっかりと地元で育っていくというところもぜひ方向性として持っていただきたいなと思います。

何人かの委員がおっしゃられたように、水俣には何もないと思って外に出てみると、外から見たら、何て子育てするのにいい環境なんだと。地元にいる間はそれがわからなかったんですね。外に出て初めてわかる水俣のよさというのはすごくあります。特に子育てにはすごく適していると思います。

積極的になれない高齢のおじいちゃん、おばあちゃん世代も、お子さんのためには出てこられる方は地元がたくさんいらっしゃると思うので、そういう意味で、子供もキーワードにぜひ入れていただきたいなと思います。

**【勢一委員】** それに関連して。今、ご指摘があった点は、実は地方創生の議論では漏れなく話題になる内容です。そういうことについて、きちんと地域で基盤をつくっていかないと地域がもたないよというところですね。ほかの方のご指摘も、伺っていますと、今、地方創生で全国的に取り組まれている部分と重なっているところはかなりあります。ですから、これからこの地域の市町の地方創生の取り組みについて、先ほど県の振興計画をベースにこれから地方創生の取り組みをされるとおっしゃっていましたが、それと連携してやっていける仕組みを検討していくと、かなり実効性があるのかなと思います。

特に、地方創生の今の売りは、行政だけが頑張るのではなく、地域の多様な主体——産・官・学・民・金を巻き込んでみんなで地域の活性化をやりましょうというところなので、いろいろな世代の方に入ってきていただいて、市民と行政、あと事業者とか、みんながアイデアを出し合って何かやっていくという形は考えられます。地方創生の枠組みの中でもかなりできることはあるのかなと思います。その上で、「水俣地域だからこそこれをやらないといけない」というものを追加できれば、もっといろいろアイデアは出るのかなと、ただいまの話をお伺いして、思いました。

**【永松座長】** ありがとうございます。

じゃあ、そろそろ時間もなくなりましたので、あとお二人だけ。牧迫委員は何か。

**【牧迫委員】** いろいろ議論があるかと思いますが、少子高齢化と健康は、多分、どこの地域でもトピックに挙がるものなので、ちょっと今、感じましたのは、未来思考をどこまで見ていくかという視点が一つあるのかなと。多分、短中期的であれば、具体的に何か行動を起こして形にしていくことも必要でしょうし、もうちょっと先であれば、先ほど出てきたような子育ての充実もどんどん打っていくといった点もあると思うんですけど

も、そういったときに、全国でやられているいろいろな先駆的なもののアイデアをどんどん取り入れて、かつ、ここにマッチして形でモディファイして使っていくのか、今あるここからゼロから何か考え出して生み出していくのかという大きく二つの形があるのかなと思っています。それで、ちょっと先で効果を見ようとする、ゼロから生み出すのは、結構、厳しいのかなと僕は感じております。そうすると、いろいろな取り組みを参考にして、ここにマッチする形をと。

あと、健康だけでは、何と申しますか、ここでやる強み、ここだからというものがちょっと薄い気がしますので、カキの話で出てきた「美」もそうですが、そこをちょっと入れながら、いろいろなアイデアをモディファイして形にしていくというやり方も一つのかなと感じております。健康に関するいろいろな取り組みがあると思いますので、どれがどうここにマッチさせるのかという、今、具体的には見えませんが、そういったやり方をと。

あと、具体的な目標があると、結構、そこから波及していろいろ効果があることが大きいのかなと僕は思っています。横浜市は15万人に歩数計を配って活動を促して、地域の商店等々にそれをモニタリングする機械を置いているんです。そうすると、どんどん外に出て、小さな商店に寄ってくれるので、多少経済的な効果も出てきているそうです。今、多分、今年度で5万人ぐらい達成したと聞きました。そういう何か具体的かつ目標数値的なものがあると、ちょっと先の未来に関しては形が見えやすいのかなとは感じておりました。

**【永松座長】** 言われますように、創造は模倣からと言いますので、いいものがあればどんどん取り入れるという。あと、それを市民が取り組んだときのおもしろさとか、先ほど言った経済効果もそうですけれども、その人のやる気が出るようなものを紹介するというのもこの研究会の一つの役割だと思います。

じゃあ、最後に、松永委員のほうから何か。

**【松永委員】** 皆様のご意見を伺いながら考えていたことが二つあります。

一つは、先ほど、「過去をどう捉えるか」みたいな議論がありましたけれども、水俣に住んでいる人、水俣市民が「我々は一体誰なのか」ということを考えるのが未来につながる、将来につながると思うんですね。そういう意味では、表現の仕方だと思うんですけども、過去に捉わるということではなく、地域の歴史、伝統、固有性をしっかり認識するという作業がどこかで必要なのではないかというのが一つです。その延長線上、それを踏まえたところにきっと未来があるんじゃないかな、外から全然違うものを持ってきても、あまり

意味がないということです。

それから、未来のことを考える、フューチャーセッションもそうですが、そのときに、牧迫委員も言われましたけれども、実効性があるものにする、具体性があるものにする、アクションとして使えるものにするというのが必要だと思います。先ほど子供の話が出ましたけれども、各地域で子ども議会ってやっていますよね。ある地域では、子ども議会で提案されたものを実際の議会、市役所が予算をつけて実施しているところもあります。そうやって実現できるんだということが、子どもや住民に理解していただければ、自分事として考えられるわけです。「いいアイデアですね、承りました」では、多分あまり役に立たなくて、小さくてもいいから実効性があるものを盛り込む必要があると思っています。そして、それはできるだけ市民から出てきたものにするということです。

以上の2点です。

**【永松座長】** ありがとうございます。

今、お話があったことに関してですが、実は本学で明日、学生のビジネスコンテストがあります。これは去年から始めたんですが、今年は優秀なアイデアには、試作品をつくらしたりするための予算として200万円ぐらいを用意したんです。そうしたところ、学生のやる気が全然変わりました。去年は、シリコンバレーに旅行に連れて行ってグーグルなんかを見せるというのを最優秀賞チームの景品にしたんですけれども、やはり目の色が変わって、必死になって頑張るんです。自分のアイデアが現実になるのはほんとうに楽しいことなんで、そういう仕掛けをというんですか。例えばフューチャーセッションでも、この中でいいものがあったら、それが実現できる、これだけのお金がついて自分たちでやれるんだよとなると、もっと真剣に深くいろいろなことを考えるようになると思いますので、そういう仕掛け、仕組みもこの研究会で提案できればと。もちろん、現実的である必要がありますので、多額の予算が必要なものとかは難しいわけですが、そうお金をかけなくてもやれることはたくさんあります。そういう知恵を市民がどんどん出したくなるような仕組みの提案も本研究会でできればと思っています。

すみません、ここは午後8時までということですので、あと5分ぐらいなんですが。

この次は3月ですか。

**【岩橋室長】** はい。3月中旬から6月中旬ぐらいの間で、今、委員の皆さんの日程をご照会させていただいておりますので、その間ぐらいで最も出席率の高いところで決めさせていただきたいと思っています。

【永松座長】　それで、皆様大変お忙しいところ申しわけないんですけども、皆様とお会いして議論をする機会が非常に少のうございますので、先ほど申し上げましたこと—市民が参加する方法、いかに市民をその気にさせ、市民のプログラムが実現するためのアイデア、そういう市民参加型の何かいいアイデアについてを一つ。

もう一つは、植木委員が幾つか、カキ小屋とかいろいろなことを提案されておりましたが、アイデアレベルで結構ですので、「そういえば水俣にはこういうのがあるから、こういうのを活用してはどうか」とか。あるいは、牧迫委員が言われたように、「あそこではこういうことをやって非常にうまくいっている」とか、それは海外の例でも構いません。水俣でこれをやったらおもしろいんじゃないかという具体的なものを。小さいものでも構いません。近所の人たちとやるレベルでもいいですし、市全体でやるレベルでもいいですけども、要するに水俣を元気にしていく、健康にもかかわりがあるし、経済振興にもかかわりがあるし、もやい直しにもかかわりがある、複数の効果がいろいろあると思うんですが、そういうことを、これは最短で3月中旬ぐらいですか。

【岩橋室長】　はい。

【永松座長】　申しわけありませんけれども、そういったことを2月いっぱいぐらいで、思いつき、アイデアレベルで結構でございますので出していただけますか。それを事務局でグルーピング化し一覧表にして事前に委員の皆様にお返しします。それでまたいろいろお考えいただいて、研究会に来ていただく、議論を深めていただくということに。そういう手順をとらないと三、四回ではまとまりそうにございませんので、お忙しいところ恐縮ですが、気兼ねせずに、どんどんアイデアを出していただければと思います。

後で事務局と相談させていただき、紙の様式とかを決めて、それを皆様に送らせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

ほかはないでしょうか。

【望月所長】　1点だけよろしいでしょうか。

どうもいろいろと活発なご討論をありがとうございます。それから、今日は、熊本県の方にはほんとうにありがとうございます。

話の流れで行きますと、健康をベースに、それにさらに大きくくりという形です。

【永松座長】　それをさらに東にするときの一つのくりですね。

【望月所長】　実は、水俣市の総合計画にしる、それから、これは実は水俣地区の話ですが、ここの地区の振興計画にしる、健康問題についてはそもそもいろいろ取り組まなけ

ればならないところもあります。ですから、基本的にいろいろな情報とかご意見とかも、市であり、県であり、いろいろなところと対応しながらやらせていただけたらと思っております。ぜひ一緒に参加していただくという形で、よろしく願いできたらと思っております。

どうもすみません。

【永松座長】 それでは、もうあと数分でございますので、事務局にお渡しします。

【岩橋室長】 それでは、以上をもちまして本日の会合を閉会いたします。ご多忙のところ、お集まりいただきまして、ありがとうございました。

— 了 —